NEWSLETTER
第22号
発行日 2010年10月29日

GraSPP
THE UNIVERSITY OF TOKYO

東京大学公共政策大学院
GRADUATE SCHOOL OF PUBLIC POLICY
THE UNIVERSITY OF TOKYO

目次

1 「国際プログラム」コース開講
2 シンポジウム「コーポレート・ガバナンスと日本経済～会社はこれからどうしていったらよいのか～」開催報告
3 学生インタビュー［伊藤琢磨さん］
4 国際石油開発帝石（株）寄付講座「エネルギーセキュリティと環境」始まる ／ トピックス

「国際プログラム」コース開講

国際企画チーム 矢嶋房枝

2010年10月1日、公共政策大学院は英語で授業を行う「国際プログラム」コース（Master of Public Policy / International Program〈以下MPP/IP〉）を開始しました。一期生は、シンガポール国立大学リー・クァンユー公共政策大学院からのダブル・ディグリー学生1名と交換留学生4名を加えた計26名です。

MPP/IPは、グローバルな視野を持ち、国際舞台で活躍する公共政策プロフェッショナルの養成を目的とした2年間の修士プログラムです。主たる教育言語は英語で、将来の日本を担う日本人学生とそれぞれの国のリーダーになる優秀な留学生が同じ教室で学び、互いに高め合う環境を目指しています。カリキュラムは、学術交流協定を持つ世界トップクラスの大学との互換性を確保し、ダブル・ディグリー制度を発展させると同時に、アジアからの視野を重視した個性豊かな科目を揃えました。世界銀行、アジア開発銀行、国際通貨基金の奨学金等によって、海外、特にアジア諸国からの優秀な学生への経済支援体制も整備されつつあります。

9月の1ヶ月間、世界銀行やアジア開発銀行の奨学生12名を対象にアカデミック準備コースが行われました。日本語、会計学、数学・統計、Academic English Writingの4コースです。受講者は超過密スケジュールの中、日々たくさんの宿題をこなしていました。各コースの講師はそれぞれとてもユニークで、会計学に慣れていなかったり、数学を忘れてしまったりしている学生もいましたが、みな楽しみながら学んでいました。9月初めには、このメンバーで鎌倉を訪れました。

また、学生たちは、この1ヶ月間で、日本人学生のチューターの助けを借りながら、外国人登録、銀行口座の開設、携帯電話、アパート契約等を行い、電車に乗って大学に通い、慣れない東京での生活にも少しずつ慣れてきました。

9月27日にはアカデミック準備コースが修了し、初めてMPP/IPほぼ全員揃ってのレセプションが行われました。ヨーロッパやアメリカからの学生も増え、とても国際色豊かな構成メンバーとなりました。公共政策大学院の特徴の一つとして、日本人学生も留学生と一緒にすべての授業を受けることが出来ることが挙げられます。学内外での国際交流が活発になり、将来の人的ネットワーク形成に寄与できれば、と考えています。これからの2年間、学生のみならず我々スタッフも互いに切磋琢磨しながら成長し、他では経験出来ないような素晴らしいプログラムを作っていけたらと思います。

シンポジウム

「コーポレート・ガバナンスと日本経済 ～会社はこれからどうしていったらよいのか～」

開催報告

東京大学公共政策大学院 客員教授
石田晋也

9月28日(火)、鉄門記念講堂で標記シンポジウムが開催されました。みずほ証券株式会社の支援を得て2007年度から開講している寄附講座「資本市場と公共政策」の活動の一環として行われたものです。

田辺院長の開会挨拶に続いて行われた岩井克人先生(国際基督教大学客員教授、東京大学名誉教授)の基調講演では、「会社」という存在の理論的構造、ポスト産業資本主義時代における組織特殊的人的資本の重要性などが指摘されました。

その後、本学の神田秀樹教授、柳川範之准教授、阿部泰久・日本経団連経済基盤本部長、大森泰人・金融庁証券取引等監視委員会事務局次長をパネリストに迎え、パネル・ディスカッションが行われました。競争力向上につながるガバナンスのあり方などを巡って活発な議論が交わされました。この模様の要約は11月15日、22日号の『週刊金融財政事情』に、詳細は公共政策大学院のHPに後日掲載する予定です。

シンポジウム後の懇親会では、来賓の横尾敬介・みずほ証券株式会社取締役社長に御挨拶を頂きました。

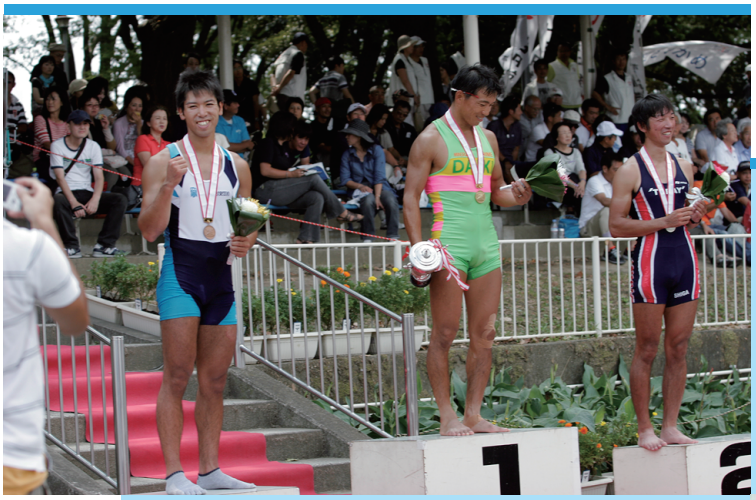
我が国のコーポレート・ガバナンスを巡っては、内外の投資家から非常に厳しい指摘がなされてきた一方で、経営者側はアメリカ流のルールが一律に強制されるような議論には非常に慎重な見方を示しています。最近は従業員側の主張や、いわゆる公開会社法といった議論など、様々な論争が続けられています。

今回のシンポジウムの目的は、具体的な制度に関する議論の前段階として、そもそも「競争力向上という観点に立った時、どういったコーポレート・ガバナンスの姿が考えられるのか」といった総論的な問題を議論することでした。一つの結論に収斂したわけではありませんが、今後につながる有意義な意見も多く、良い議論ができたと思います。この問題は外国の教科書に正解があるわけではなく、日本自身の課題として、アカデミックや実務の英知を集めて引き続き忍耐強く議論を尽くし、明日を切り開く知恵をひねり出していかなければならない、と改めて感じた次第です。

―― ボート競技で日本有数の選手だそうですね。

ボート競技で唯一の個人競技であるシングルスカル（1人の漕ぎ手がオール2本を用いて漕ぐ）が専門です。今シーズンは全日本選手権で3位入賞するなど、とくに良い成績が残せたので、ひょっとしたらロンドン・オリンピックが狙えるんじゃないか？ という声も頂いています。

高校からボートを始めました。出身の静岡県はボート競技が盛んな土地で、全国大会は静岡の船明（ふなぎら）ダムで開催されます。（明治）大学3年のとき、あと一歩で日本代表というところまでいきました。派遣する3人を選ぶ最終選考の4人には残ったのですが。東大でもボート部に所属しています。



【写真・上】
全日本選手権で男子シングルスカル第3位に入賞（左が伊藤さん）

学生インタビュー

伊藤琢磨さん

公共管理コース2年

―― 公共管理コースの学生さんをお迎えするのは初めてなのですが、GraSPP、そして公共管理コースを選んだ理由は？

大学で行政学を学んだので、その流れで大学院でも公共管理コースを選択しました。高校はボート三昧で勉強がすっかり疎かになってしまい、大学院に入るときは死ぬほど勉強しました（笑）。昔から大学院に行きたいと漠然と考えていて、大学院に進学しようと最終的に決めたときは、明治も環境はよかったのですが、どうせなら東大の大学院を目指そう、と。また、研究よりは実務に興味があったので、幅広い関心が満たせるGraSPPにしました。英語が苦手だったのですが、なぜかTOFELでいい点が出ました。

―― 面白かった授業を教えてください。

エネルギー技術関係の授業を中心的に取っていました。諸葛宗男先生の「エネルギー・環境技術の観点から見た産業技術論」、城山英明先生の事例研究が印象に残っています。城山先生と松浦正浩先生の事例研究「政策プロセスマネジメント」の一環として、昭和シェル石油が運営している新潟市のメガソーラー（大規模太陽光発電）発電所を見学しました。ここは昭和シェル石油の石油基地の跡地で、発電された電力は東北電力に売られています。城山先生と吉澤剛先生の事例研究「環境・技術政策」では、発電所の見学も兼ね茨城県東海村で最終発表を行いました。諸葛先生の授業では今学期、ティーチング・アシスタントをすることになりました。

―― 電源開発に就職が決まったと伺いました。

電源開発は電気を各電力会社に卸売りする会社です。3ヶ月間びっちりと研修があるそうです。その後配属が決まります。電源開発は、原子力発電所を建設中の青森県・大間など国内各地に設備があります。（アメリカ、タイなど海外にも設備を有しています。）どこに配属になるのか、どきどきしています。

（インタビュー・文責　編集担当）

国際石油開発帝石（株）寄付講座
「エネルギーセキュリティと環境」始まる

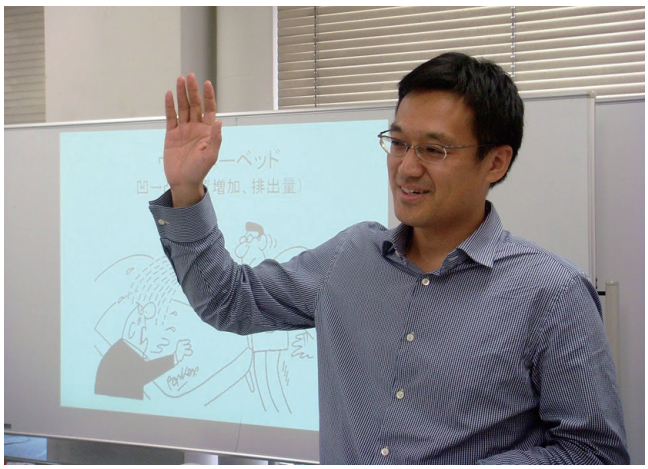
非常勤研究員　井澤　淳（国際石油開発帝石株式会社）

今年度より、国際石油開発帝石（株）による寄付講座「エネルギーセキュリティと環境」が始まりました。エネルギー問題・環境問題について研究を進め、日本のエネルギー政策推進のための人材育成、エネルギー安全保障の重要性に対する社会的な認知度を高めることを目的に、3年間にわたって運営されます。

今日の世界は、経済成長、エネルギー安全保障、気候変動対策の全てに対応していくことが求められています。こういった課題の研究、理解には、理論だけでなく実務的なインプットがきわめて重要です。本講座は、本分野の政策、理論、実務に知見の深い、小山堅特任教授（日本エネルギー経済研究所）、馬奈木俊介特任准教授（東北大学）、谷みどり非常勤講師（経済産業省）、林良造教授（公共政策大学院）が担当しています。

本講座の講義として、2010年度夏学期は「エネルギー政策」、「京都議定書を読む」、冬学期は「環境政策」が行われます。研究会では、本講座のテーマに関連した有識者・専門家にお集まりいただき、参加者による発表や議論を行っています。また、研究テーマを総括的に議論する場として、年1回、国際シンポジウムを開催する計画です。今年度は11月29日（月）午後、本郷キャンパス鉄門記念講堂にて開催します。

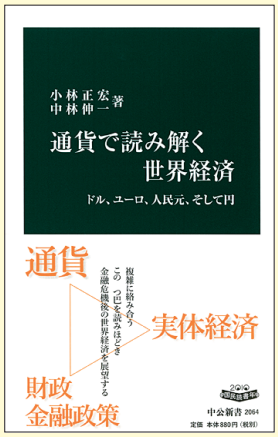
エネルギー安全保障、エネルギー問題、環境問題を改めて考える機会を提供する講座になっていると思います。学生の皆様のご参加を心よりお待ちしております。



TOPICS トピックス

中林伸一教授の著書『通貨で読み解く世界経済』（中公新書）が刊行されました。中林先生が直接紹介文をお寄せ戴きましたので、ご紹介します。

「アメリカの追加金融緩和観測を受けて、ドルは全面安になっている。円やユーロ、新興国通貨が軒並み上昇する中、中国は、人民元の上昇に強く抵抗している。デフレと円高が相互に関連しながら進行する日本では、一層の金融緩和が急務である。通貨、財政金融政策、実体経済の三つ巴を最先端の理論的・実証的研究と各国の歴史を踏まえて読みほどく」



編集後記

東大から久々にオリンピック選手誕生なるか？　今回学生インタビューに登場した伊藤さんの話を聞いていると、ロンドン・オリンピックで彼の雄姿を見られるかもしれない、そんな楽しい夢を抱かせてくれます。2年後が待ち遠しいです。（編集担当）

NEWSLETTER
第22号

［編集・発行］……東京大学公共政策大学院
GRADUATE SCHOOL OF PUBLIC POLICY
THE UNIVERSITY OF TOKYO
［発行日］……2010年10月29日
［デザイン］……安孫子正浩（水蒸気図案室）

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1　tel 03-5841-1710　fax 03-5841-7877
E-mail grasppnl@pp.u-tokyo.ac.jp　http://www.pp.u-tokyo.ac.jp